

【連載】

老健仕事人 リスクマネジャー

ケア現場で見えてくる 安全対策担当者の役割



廣江隆能 [ひろえ・たかよし]
介護老人保健施設昌寿苑(島根県)
事務部長

はじめに

令和6年能登半島地震におきまして、お亡くなりになった方々、そのご家族、ご親族、関係者の方々に對しまして、心よりお悔やみ申し上げますとともに、被災者の皆さまに心よりお見舞いを申し上げます。

施設を取り巻くリスクはさまざまに多岐にわたり、この度のような大きな震災も、いつ発生するかわかりません。

2021年度の介護報酬改定で義務化されてからの安全対策担当者の配置は、施設利用者の安全・安心な日常生活を守るだけでなく、施設全体としてのサービスの質を高めるためにも有効であると考えられています。当施設での取り組みを振り返り、安全対策担当者の役割を考えてみたいと思います。

施設紹介

当施設は、1988年12月に開設、2013年5月には新築移転を行い、増加傾向にあった重度者対応、看取り等のニーズを見込み、老健施設は全室個室とし、医療用酸素の配管工事も施し、2018年度の介護報酬改定と同時に、施設2階部分(52床)を介護療養型老人保健施設から介護医療院へとスムーズに転換することができました。

1階は通所リハビリ(定員100名)、3・4階は入所(80床)となっており、在宅支援、リハビリから看取りまでを1か所で継続性をもってサポートできる体制をとり、母体病院を中心に、関連の社会福祉法人が運営する事業所とともに、「地域包括ケア・コンパクトシティ ふれあいタウンやすぎ」というまち(ゾーン)を形成しています。

業務について

私は事務職員として業務を行っていますが、総合的な事務業務に加え、安全対策担当者としての委員会活動の他、施設設備点検や業者への連絡や対応、安全運転管理、防火管理等のさまざまな業務を行っています。

全老健の介護老人保健施設リスクマネジャー養成講座では、2009年度の第2期生としてリスクマネジャーの資格を取得しました。当時は居宅介護支援専門員として業務を行っていましたが、さまざまな事例等を経験する過程でリスクマネジメントの重要性を痛感し、他の職員へ養成講座の受講を勧めました。一時期は6名の取得者がいましたが、異動等もあり、現在は私を含め、3名のリスクマネジャーが在職しており、他の安全対策担当者とともに職務にあたっています。

テーマ

当施設では、以前より多職種で構成した安全管理委員会を設置、指針等を整備し、活動を行っており、全老健の養成講座を受講したリスクマネジャーも中心的な役割を果たしていたため、安全対策担当者の配置義務化に対しては大きな変化はなかったと考えます。

委員会活動では、インシデント報告の点検、再発防止策の確認や情報共有の他、注目ニュースや話題等の情報提供を行います。業務改善や提案事項の進捗状況の確認をはじめ、委員からは業務での気づき、施設内の気になる点等を報告してもらうことで、有意義なディスカッションの場にもなっているようです。